

小・中学校教育の教育課程に関連する資料

諮問参考資料（第1回教育課程企画特別部会資料）及び第5回までの各種データを元に
資料を追加したもの（今後の検討に合わせて追加予定）

目次

・小学校・中学校の基本情報(学校数、児童生徒数等)・・・	2-3	・英語教育の実施状況について・・・・・・・・・・・・・・	49
・義務教育の目的・目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4-7	・情報活用能力調査(概要)・・・・・・・・・・・・・・・・・・	50-51
・小学校・中学校の学習指導要領の構成・・・・・・・・・・	8	・情報モラル関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	52-53
・OECD生徒の学習状況調査(PISA)の結果・・・・・・・・・・	9-10	・学校における指導状況と学力の関係・・・・・・・・・・	54
・全国学力・学習状況調査の結果から・・・・・・・・・・	11-12	・主体的な学びに関する問題・・・・・・・・・・・・・・・・・・	55
・小学校学習指導要領実施状況調査結果のポイント・・・	13-32	・ICT環境整備と教員のICT活用指導力・・・・・・・・・・	56-57
・学習意欲・学習習慣に関するデータ・・・・・・・・・・	33	・学校運営に関する組織的な取組と学力の関係・・・・	58
・中高生の自己認識・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	34-38	・関係する答申等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	59
・若者の社会参画等の意識(投票率の低下)・・・・・・・・	39	・学校と家庭、地域の連携について・・・・・・・・・・	60
・キャリア教育の学習に係る体験的な学習機会・・・・・・・・	40	・小中学校の授業時数について・・・・・・・・・・・・・・・・	62-65
・若年層就労者の意識・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	41	・各学校の教育課程の編成状況・・・・・・・・・・・・・・・・	66
・児童生徒の体力・運動能力・・・・・・・・・・・・・・・・	42-44	・個に応じた指導、教科担任、外部人材の活用・・・・	67-68
・児童生徒のメンタルヘルス・・・・・・・・・・・・・・・・	45	・小学校と中学校の連携について・・・・・・・・・・	69
・部活動に関するデータ・・・・・・・・・・・・・・・・・・	46-48	・小中一貫教育に関する取組状況等・・・・・・・・・・	70-71
		・小中一貫教育に関する制度設計(法案の概要)・・・・	72

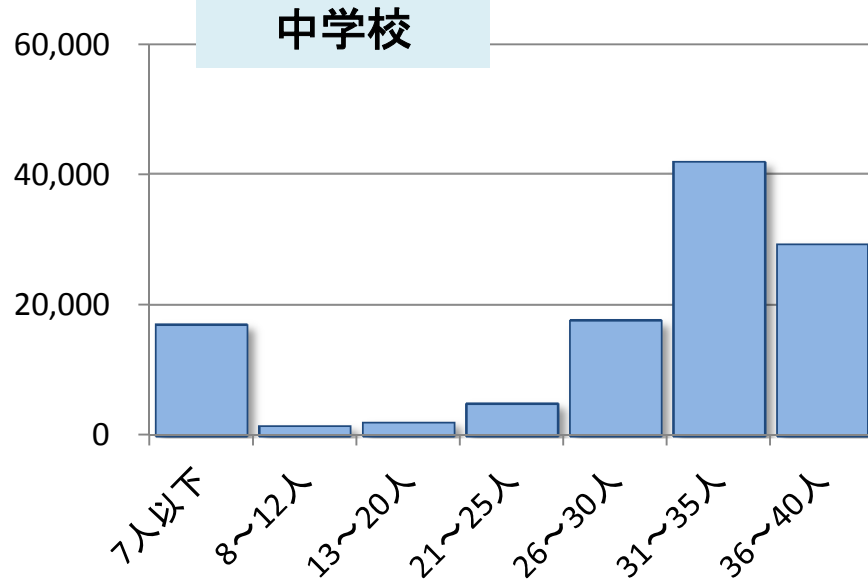
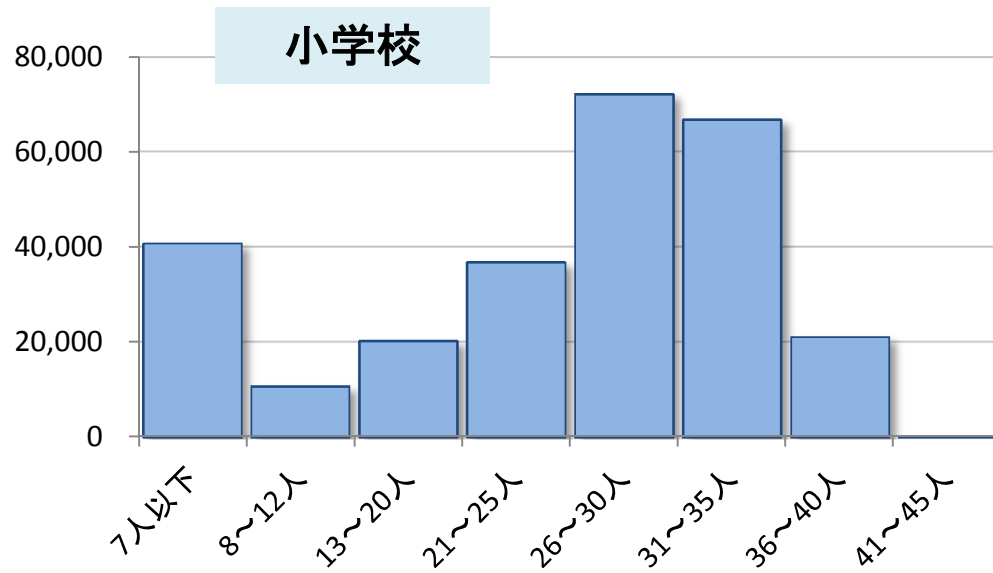
小学校・中学校の基本情報①

学校数、学級数、児童生徒数、本務教員数

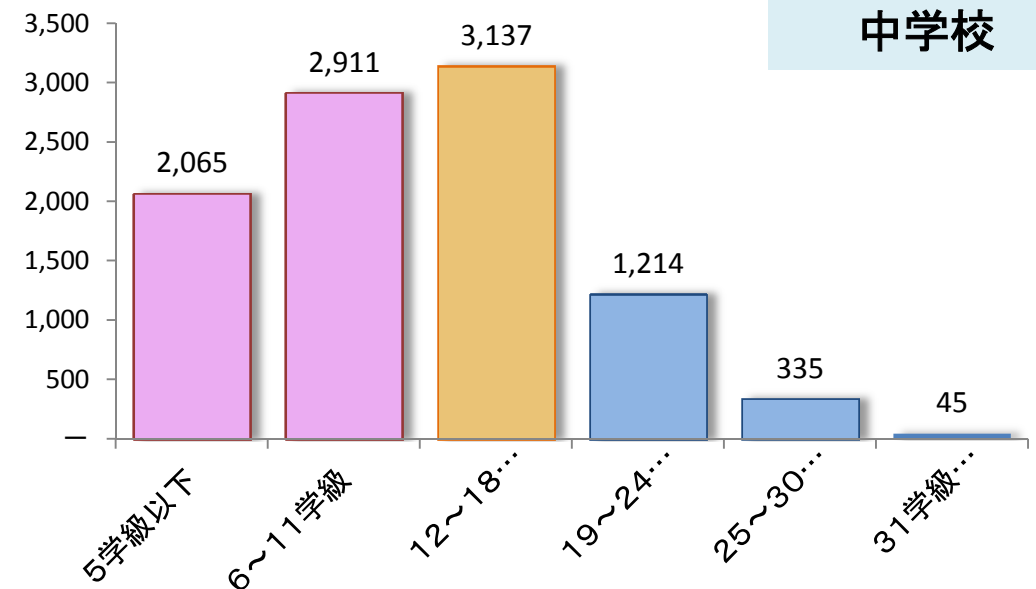
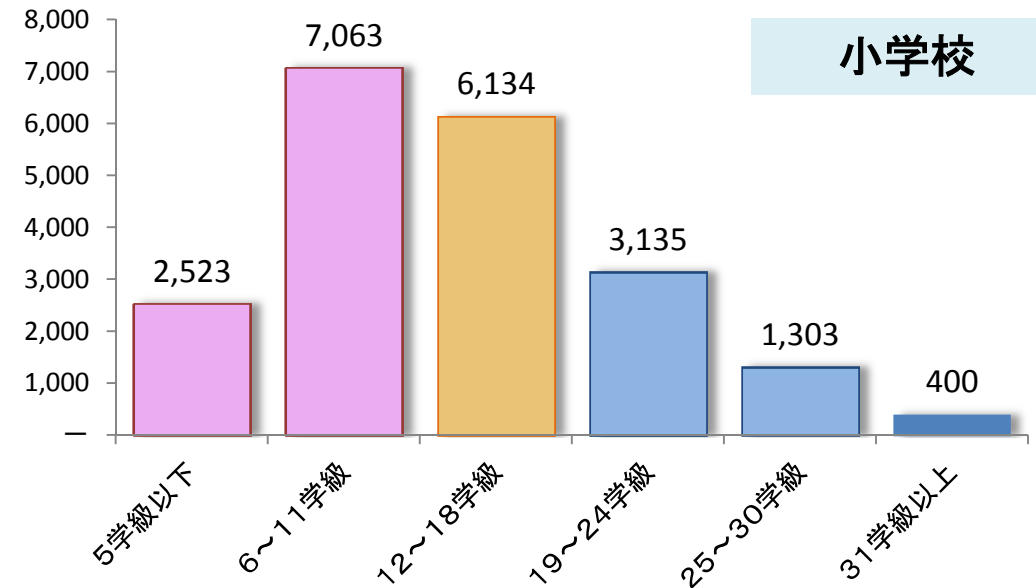
		学校数 (校)	学級数	児童生徒数 (人)	本務教員数 (人)
小学校	計	20,852	272,698	6,600,006	416,475
	国立	72 0.3%	1,226 0.4%	41,067 0.6%	1,833 0.4%
	公立	20,558 98.6%	268,752 98.6%	6,481,396 98.2%	409,753 98.4%
	私立	222 1.1%	2,720 1.0%	77,543 1.2%	4,889 1.2%
中学校	計	10,557	122,924	3,504,334	253,832
	国立	73 0.7%	824 0.7%	31,220 0.9%	1,628 0.6%
	公立	9,707 91.9%	114,664 93.3%	3,227,314 92.1%	237,082 93.4%
	私立	777 7.4%	7,436 6.0%	245,800 7.0%	15,122 6.0%

小学校・中学校の基本情報②

収容人数別学級数(公立)



学級数別の学校数(公立)



出典:平成26年度学校基本調査

教育課程に関する法制①

教育課程編成の基本的考え方

国

教育について一定の水準を確保するために、
学習指導要領など、学校が編成する教育課程の基準を制定
(各教科等の構成、年間の標準時間数、教科等の大綱的な目標、内容等)

教育委員会
(設置者)

教育課程など学校の管理運営の基本的事項について規則を制定
(学年・学期、休業日、校務分掌、教育課程編成や教材使用の手続き等)

学校
(校長)

学習指導要領等の基準に従いながら、創意工夫を加えて、
地域や学校及び児童の実態に即した教育課程を編成・実施
(教育目標の設定、指導内容の組織及び授業時数の配当など)

教育課程に関する法制②

教育課程に関する法制上の仕組み

日本国憲法	教育を受ける権利、義務教育について規定。
教育基本法	教育の目的、教育の目標、教育の機会均等、義務教育、学校教育、大学、家庭教育、社会教育等を規定。
学校教育法	各学校段階ごとの目的、目標、修業年限を規定。また、教科に関する事項は文部科学大臣が定めることを規定。
地方教育行政の組織及び運営に関する法律	教育委員会が学校の教育課程に関する事務を管理、執行し、教育課程について必要な教育委員会規則を定めることを規定。
学校教育法施行規則 (文部科学省令)	各学校段階ごとの各教科等の構成、年間標準授業時数を規定。また、教育課程の基準として文部科学大臣が別に公示する学習指導要領によることを規定。
学習指導要領 (文部科学省告示)	教育課程編成の基本的な考え方や、授業時数の取扱い、配慮事項などを規定した総則と、各教科、道徳、特別活動等の目標、内容及び内容の取扱いなどを規定。

義務教育の目的や目標等

教育基本法（平成18年法律120号）（抄）

（義務教育）

第五条 国民は、その保護する子に、別に法律で定めるところにより、普通教育を受けさせる義務を負う。

2 義務教育として行われる普通教育は、各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、また、国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うことを目的として行われるものとする。

3 国及び地方公共団体は、義務教育の機会を保障し、その水準を確保するため、適切な役割分担及び相互の協力の下、その実施に責任を負う。

4 国又は地方公共団体の設置する学校における義務教育については、授業料を徴収しない。

学校教育法（昭和22年法律26号）（抄）

第二十一条 義務教育として行われる普通教育は、教育基本法（平成十八年法律第一百二十号）第五条第二項に規定する目的を実現するため、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

一 学校内外における社会的活動を促進し、自主、自律及び協同の精神、規範意識、公正な判断力並びに公共の精神に基づき主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。

二 学校内外における自然体験活動を促進し、生命及び自然を尊重する精神並びに環境の保全に寄与する態度を養うこと。

三 我が国と郷土の現状と歴史について、正しい理解に導き、伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛する態度を養うとともに、進んで外国の文化の理解を通じて、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

四 家族と家庭の役割、生活に必要な衣、食、住、情報、産業その他の事項について基礎的な理解と技能を養うこと。

五 読書に親しませ、生活に必要な国語を正しく理解し、使用する基礎的な能力を養うこと。

六 生活に必要な数量的な関係を正しく理解し、処理する基礎的な能力を養うこと。

七 生活にかかわる自然現象について、観察及び実験を通じて、科学的に理解し、処理する基礎的な能力を養うこと。

八 健康、安全で幸福な生活のために必要な習慣を養うとともに、運動を通じて体力を養い、心身の調和的発達を図ること。

九 生活を明るく豊かにする音楽、美術、文芸その他の芸術について基礎的な理解と技能を養うこと。

十 職業についての基礎的な知識と技能、勤労を重んずる態度及び個性に応じて将来の進路を選択する能力を養うこと。

(小学校)(抜粋)

第二十九条 小学校は、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育のうち基礎的なものを施すことを目的とする。

第三十条 小学校における教育は、前条に規定する目的を実現するために必要な程度において第二十一条各号に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

2 前項の場合においては、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

第三十一条 小学校においては、前条第一項の規定による目標の達成に資するよう、教育指導を行うに当たり、児童の体験的な学習活動、特にボランティア活動など社会奉仕体験活動、自然体験活動その他の体験活動の充実に努めるものとする。この場合において、社会教育関係団体その他の関係団体及び関係機関との連携に十分配慮しなければならない。

第三十二条 小学校の修業年限は、六年とする。

第三十三条 小学校の教育課程に関する事項は、第二十九条及び第三十条の規定に従い、文部科学大臣が定める。

(中学校)(抜粋)

第四十五条 中学校は、小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、義務教育として行われる普通教育を施すことを目的とする。

第四十六条 中学校における教育は、前条に規定する目的を実現するため、第二十一条各号に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

第四十七条 中学校の修業年限は、三年とする。

第四十八条 中学校の教育課程に関する事項は、第四十五条及び第四十六条の規定並びに次条において読み替えて準用する第三十条第二項の規定に従い、文部科学大臣が定める。

※第30条2項及び第31条は、中学校においても準用されている。

小学校・中学校の学習指導要領の構成

学習指導要領の構成（例 小学校学習指導要領）

第1章 総 則

教育課程編成の一般方針、内容等の取扱いに関する共通的事項、授業時数等の取扱い、指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項について規定

第2章 各 教 科

各教科等ごとに、目標、内容、内容の取扱いを規定

第1節	国 語	第6節	音 楽
第2節	社 会	第7節	図画工作
第3節	算 数	第8節	家 庭
第4節	理 科	第9節	体 育
第5節	生 活		

第3章 道 徳 ※

第4章 外 国 語 活 動

第5章 総合的な学習の時間

第6章 特 別 活 動

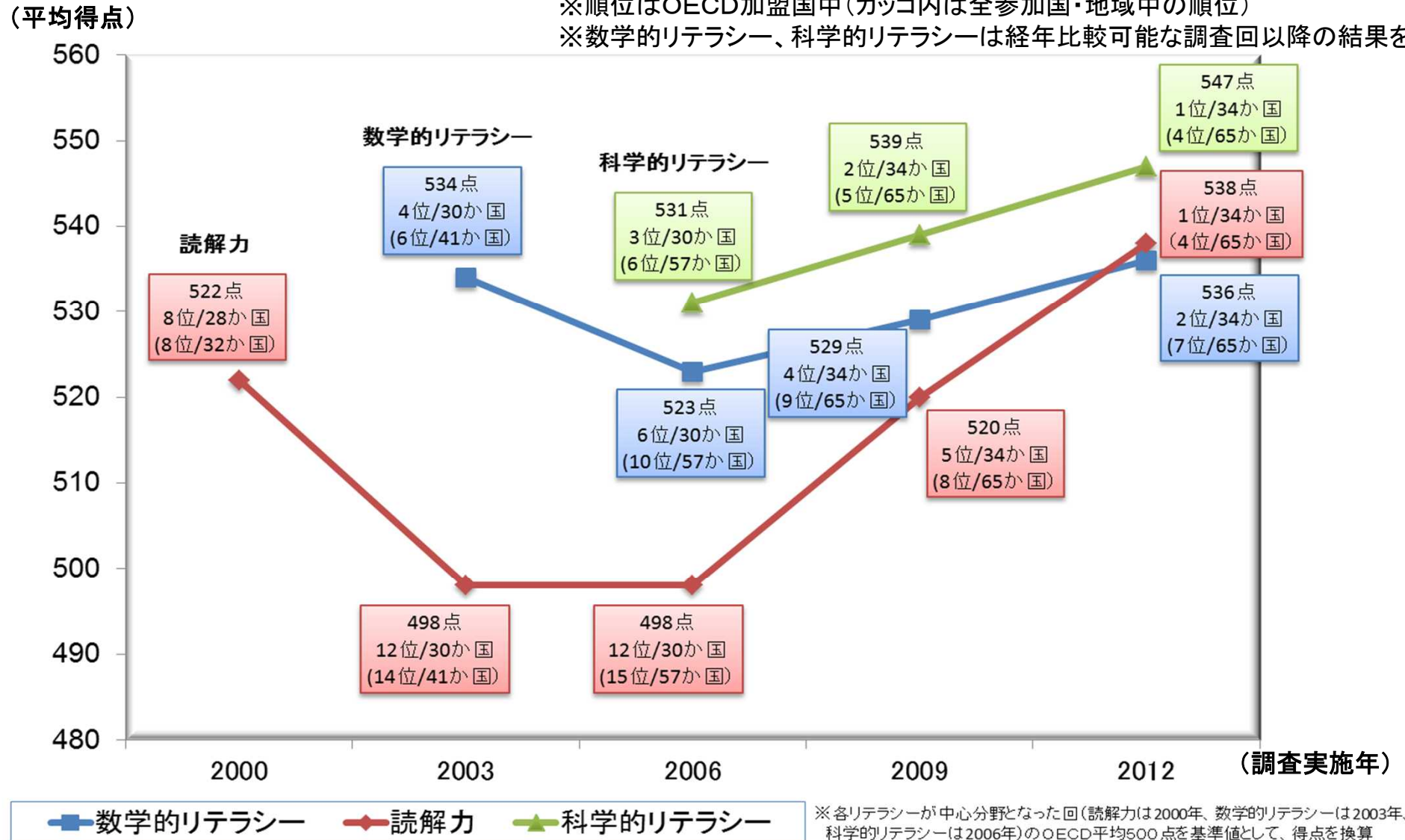
※ 平成30年度より「特別の教科 道徳」として位置づけ。（中学校は平成31年度より）

OECD生徒の学習到達度調査（PISA）の結果 —平均得点及び順位の推移—

◆ 数学的リテラシー、読解力、科学的リテラシーの3分野すべてにおいて、平均得点が比較可能な調査回以降、最も高くなっている。

平均得点及び順位の推移

※PISA調査：OECDが15歳児（我が国では高校1年生）を対象に実施
 ※順位はOECD加盟国中（カッコ内は全参加国・地域中の順位）
 ※数学的リテラシー、科学的リテラシーは経年比較可能な調査回以降の結果を掲載



（出典）文部科学省・国立教育政策研究所「OECD生徒の学習到達度調査（PISA2012）のポイント」

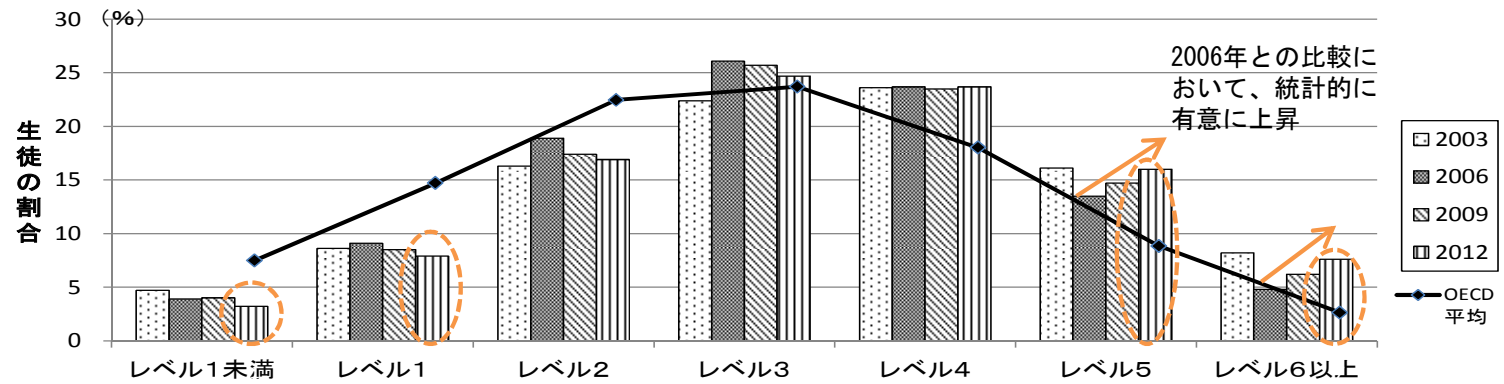
OECD生徒の学習到達度調査 (PISA) の結果 —習熟度レベル別割合の変化—

◆習熟度レベル別でも、2009年調査から引き続き、レベル1以下の下位層の割合が減少し、レベル5以上の上位層の割合が増加している。

習熟度レベル別割合の変化

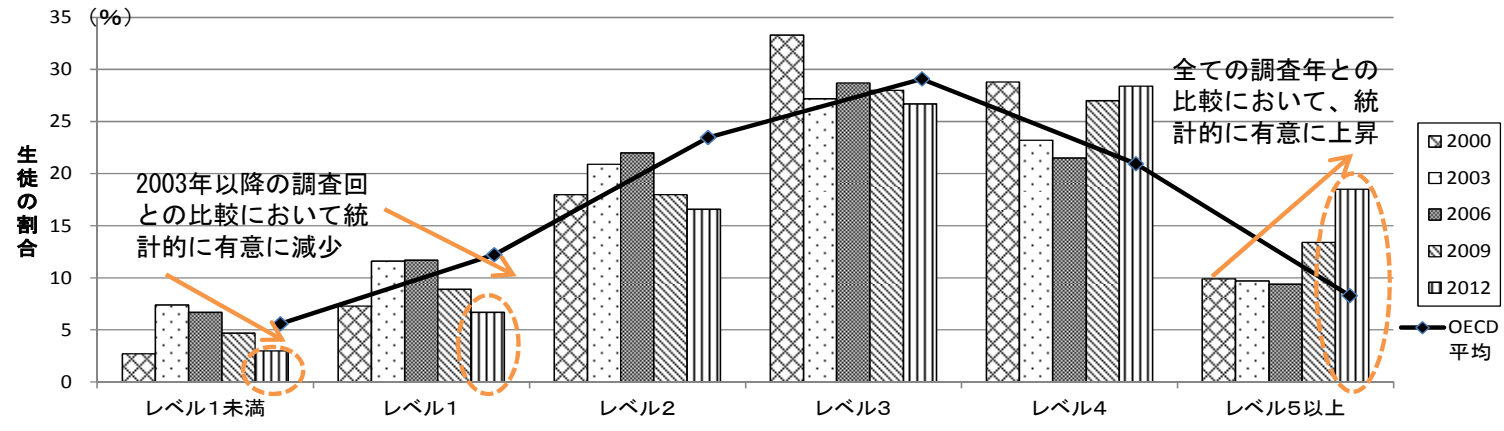
数学的リテラシー

レベル1以下の生徒の割合が2003年以降で最も少なく、レベル5以上の生徒の割合は2006年と比較して有意に増加



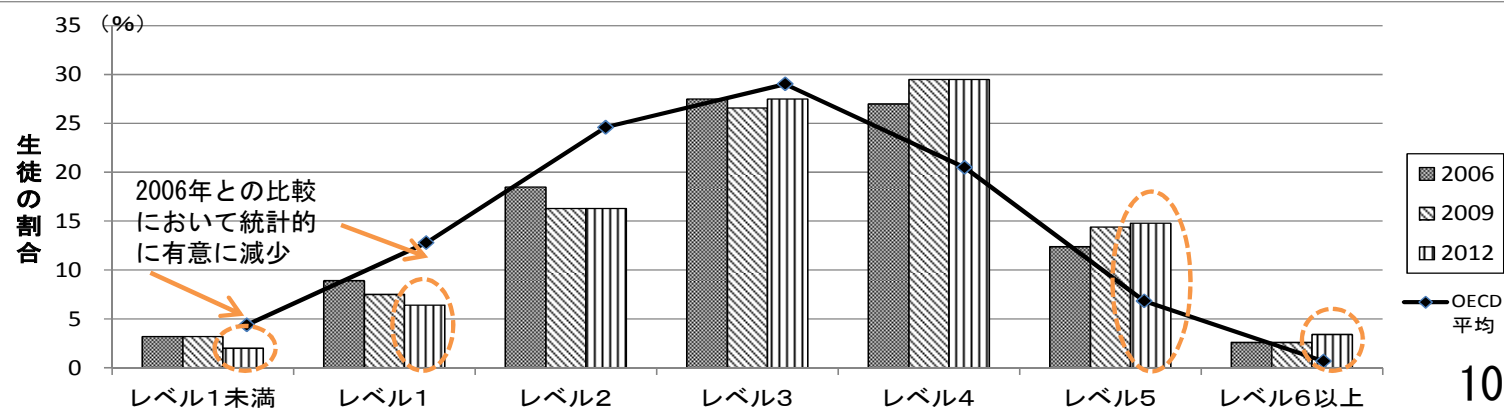
読解力

レベル1以下の生徒の割合は2000年レベルまで改善し、レベル5以上の生徒の割合は2000年以降で最も多い



科学的リテラシー

レベル1以下の生徒の割合が2006年以降で最も少なく、レベル5以上の生徒の割合が最も多い



※経年比較のため、レベル1=レベル1a、レベル1未満=レベル1b+1b未満、レベル5以上=レベル5+レベル6以上として記載

(出典) 文部科学省・国立教育政策研究所「OECD生徒の学習到達度調査 (PISA2012) のポイント」

平均正答率が低い県と全国平均の差の縮小 —全国学力・学習状況調査の結果から—

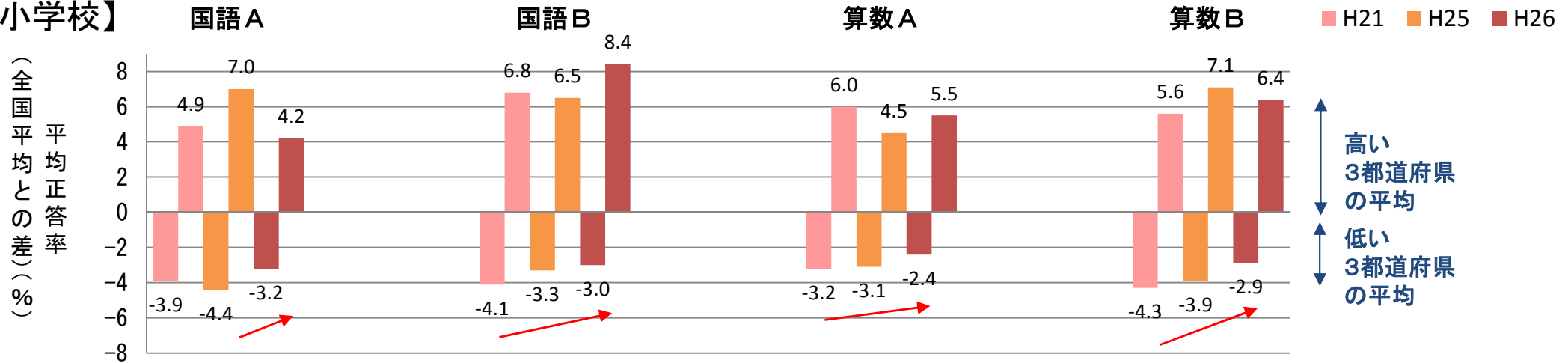
◆各年度で平均正答率(公立)が低い3都道府県の平均を見ると、全国平均との差は縮小傾向にあり、学力の底上げが進展している。

平均正答率(全国平均との差)の推移

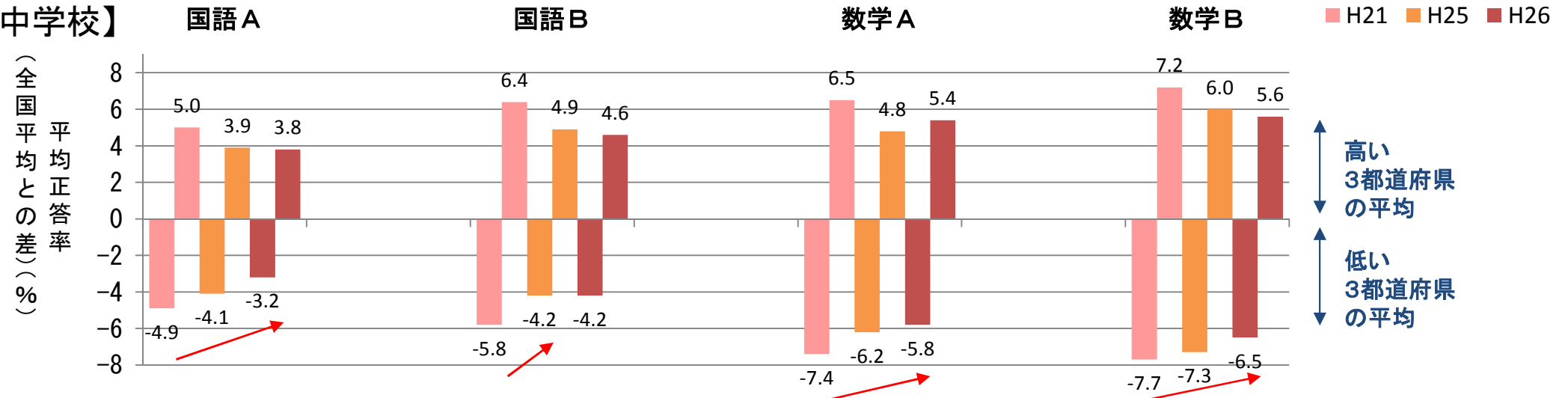
※高い3都道府県と低い3都道府県の状況

(平成21・25・26年度で、平均正答数・正答率(公立)が高い3都道府県と低い3都道府県の平均を算出)

【小学校】



【中学校】



(出典) 文部科学省・国立教育政策研究所「平成26年度全国学力・学習状況調査の結果(概要)」

◆学力は改善傾向にある一方で、判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを述べることについて課題が指摘されている。

小学校

<国語>

- 立場や根拠を明確にして話し合うことについて、発言をする際に一定の立場に立ってはいるが、**根拠を明確にした上で発言をする点**に、依然として課題がある。

<算数>

- 図を観察して数量の関係を理解したり、数量の関係を表現している図を解釈したりすることに課題がある。
- 数量の大小を比較する際に、**根拠となる事柄を過不足なく示し、判断の理由を説明すること**について、改善の状況が見られる設問もあるものの、依然として課題がある。

中学校

<国語>

- 自分の考えを表す際に、根拠を示すことは意識されているが、**根拠として取り上げる内容を正しく理解した上で活用する点**に課題がある。
- 文章や資料から必要な情報を取り出し、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書くことについて、説明する際に、文章や資料から必要な情報を取り出してはいるが、それらを用いて**伝えたい内容を適切に説明する点**に、依然として課題がある。

<数学>

- 記述式問題は、特に**確率を用いた理由の説明、グラフを用いた方法の説明**に課題がある。
- 図形の性質を証明することについて、着目すべき図形を指摘することは良好であるが、**方針を立て、証明を書くこと**に課題がある。

I. 調査の概要

1. 調査の趣旨

小学校の学習指導要領の検証のため、指導要領の改善事項を中心に、各教科の目標や内容に照らした児童の学習の実現状況について調査研究を行い、次期指導要領改訂の検討のためのデータ等を得る。

2. 調査の内容

各教科で下記の①～③の視点に基づくペーパーテスト調査を実施。あわせて、児童、教師、学校長を対象とした質問紙調査を実施。

- ① 今回の改訂の基本方針に掲げられている事項
(例) 思考力・判断力・表現力等の育成等
- ② 今回の改訂で新設、学年及び学校を越えて移行した事項
- ③ 従来より課題と指摘される事項や、経年比較等の観点から把握・分析が必要な事項等

3. 調査対象学年、教科及び調査実施日

平成25年2月18日(月)～3月8日(金)

- ・ 第4学年 国語, 社会, 算数, 理科
- ・ 第5学年 社会, 算数, 理科
- ・ 第6学年 国語, 社会, 算数, 理科, 音楽, 図工, 家庭

4. 調査実施校及び調査対象児童数

911校(全学校の約4.2%), 111,797人(対象学年の約3.2%)

※1教科1問題冊子当たり, 3,000人程度の調査結果を得ることができるよう, 国立教育政策研究所において調査対象校を無作為抽出。

小学校学習指導要領実施状況調査 各教科のペーパーテスト調査結果の概要と指導上の改善点（国語）

- ・ 目的や意図に応じて相手の話の内容を聞き取ることや、問われたことに対して情報を正確に取り出すこと等については、相当数の児童ができている。
- ・ 目的に応じて文章を要約するなど課題解決に向けて主体的に文章を読むことや、ポスター・リーフレットなど文章の種類や特徴に応じて効果的に文章を書くこと等については、課題があると考えられる。

A-1. ペーパーテスト調査結果の概要(国語)

1. 今回の改訂の基本方針に掲げられている事項

(1) 思考力・判断力・表現力等の育成

相当数の児童ができている（おおむね80%以上）

- ・ 目的や意図に応じて、相手の話の内容を聞き取ること

課題があると考えられる（おおむね60%未満）

- ・ 課題を明確にし、その解決のために必要な情報を判断し、目的に応じて情報検索の手段を活用して必要な情報を集めること
- ・ 課題解決に向けて主体的に文章を読むこと（目的に応じて文章を要約したり、説明的な文章について必要な箇所を見付けて読んだりすることなど）

(2) 実生活で生きてはたらき、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力（「話す・聞く能力」、「書く能力」、「読む能力」）の育成

相当数の児童ができている（おおむね80%以上）

- ・ 図表を用いて自分の考えが伝わるように文章を書いたり、略述して簡潔に書いたりすること
- ・ 問われたことに対して情報を正確に取り出すこと

課題があると考えられる（おおむね60%未満）

- ・ 聞いた内容を目的に応じて活用しやすいようにメモにまとめること
- ・ ポスターやリーフレットなどの文章の種類や特徴に応じて、効果的に文章を書くこと
- ・ 十進分類法を活用して必要な図書資料を探す場面において、目的に応じ、必要な本や資料を検索すること

2. 今回の改訂で新設、学年及び学校を越えて移行した事項

相当数の児童ができている（おおむね80%以上）

- ・ 時間の経過による言葉の変化や比喩などの表現の工夫に気付くこと【新設：5、6年】
- ・ 清音のローマ字を読むこと【移行：4年→3年】

課題があると考えられる（おおむね60%未満）

- ・ 図鑑の使い方を解説した冒頭のページの特徴を生かして、必要な情報を得ること【新設：5、6年】
- ・ 促音を含んだ語をローマ字で書くこと【移行：4年→3年】

3. 従来より課題と指摘される事項や経年比較等の観点から把握・分析が必要な事項等

相当数の児童ができている（おおむね80%以上）

- ・ 自分の意見と比べながら聞き、自分の考えをまとめること【従来より課題】

課題があると考えられる（おおむね60%未満）

- ・ 話合いの流れ全体を踏まえ、話し手の意図を明確に押さえた上で質問すること【従来より課題】
- ・ 日常の一場面を切り取って描くなど、展開の起伏の少ない物語等において、登場人物相互の関係を物語全体の展開からとらえて読むこと【従来より課題】

小学校学習指導要領実施状況調査

各教科のペーパーテスト調査結果の概要と指導上の改善点（国語）

A-2. 指導上の改善点(国語)

1. 児童自身が目的や必要感をはっきりと意識して取り組める言語活動の設定

- ・児童自身の目的意識や必要感を十分に喚起するため、児童の課題意識をかき立てる言語活動を単元に位置付けて指導を行うなど、学習指導の工夫が重要。

2. 指導のねらいにふさわしく、かつ、児童自身にとっての課題解決の過程となるような、単元を貫く言語活動を位置付けた学習過程の工夫

- ・児童が言語の知識や技能を使いこなせるようするためには、単元全体を通した一貫した課題となる言語活動(単元を貫く言語活動)を位置付けることにより、課題解決の過程を明確にした指導計画を工夫することが重要。
- ・その際、児童が、当該単元で付けるべき国語の能力を確実に身に付けられるよう、指導事項等を明確に把握し、ねらいにふさわしい言語活動を吟味して位置付けるとともに、児童が自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的に取り組むことができるよう留意することが重要。

3. 場面や状況、必要な条件などを踏まえて話したり聞いたり、書いたり読んだりする学習指導の工夫

- ・目的に応じて必要な箇所を的確に判断して読むこと等ができるよう、どのようなことを念頭において言語活動を行うべきかといった、学習の見通しを立てたり、課題解決に向けて学んだことは何かといったことを、学習指導のねらいに即して振り返ったりすることができるような活動を位置付けることが重要。
- ・学習活動の中に話し合いなどの交流を位置付ける場合も、何のために、誰と、どのように交流するのかといったことを明確に意識できるようにすることが重要。

4. 読書に親しむ態度を育成する指導の充実

- ・多様な読書経験を通し、様々なものの見方や考え方に触れ、読む能力やその基盤となる思考力や判断力を育むことが重要。そのため、指導のねらいを明確化し、読書活動を国語科の授業に明確に位置付けるとともに、「大好き」「心に残る」といった思いを膨らませ読書に親しめるようにすることが重要。
- ・その際、教科書教材と関連する本を選んで読む並行読書を効果的に取り入れることが重要。また、国語科における読書活動は、あくまでも国語科のねらいを実現するための手立てとして取り入れるものであることを踏まえ、特定の読書活動を行うことが目的化することのないよう留意することが必要。

5. 本の題名や見出し、目次や索引などを用いて、主体的に情報を活用するための系統的な指導の充実

- ・十進分類法を活用したり、図鑑の読み方を解説したページを使いこなしたりするなど、情報を主体的に活用する能力を育むことが重要であり、児童の発達の段階を踏まえ、低学年から継続的・系統的に指導することが重要。
- ・その際、単に検索方法の知識を取り出して指導するのではなく、課題解決の過程の中で、情報検索が必要な場面を設定して指導するよう留意することが必要。

小学校学習指導要領実施状況調査 各教科のペーパーテスト調査結果の概要と指導上の改善点（社会）

- ・ 示された学習問題の解決を見通して調べる事柄や資料を選ぶことや、グラフや年表から情報を読み取ること等については、相当数の児童ができてい
- る。
- ・ 資料から読み取った情報を比較・関連付け・総合したりして社会的事象の働きや役割などを考え表現することや、地図から読み取った情報を適切に表現すること等については、課題があると考えられる。

B-1. ペーパーテスト調査結果の概要(社会)

1. 今回の改訂の基本方針に掲げられている事項

(1) 思考力・判断力・表現力等の育成

相当数の児童ができています（おおむね80%以上）	課題があると考えられる（おおむね60%未満）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 示された学習問題の解決を見通して、調べる事柄や資料を選ぶこと ・ 文化遺産(有形・無形)の保存や継承の意義を考え表現すること 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料から読み取った情報を、比較したり、相互に関連付けたり、総合したりして、社会的事象の働きや役割などを考え表現すること

(2) よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎の育成

- ・ よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎に関連する「社会的事象への関心」については、「我が国と外国との関係」への関心は他の調査事項(注)と比べて高いが、「我が国の政治」、「我が国の水産業」への関心は他の調査事項(注)と比べて低い。
- (注)他の調査事項…「昔の人々の暮らし」、「地域の行事や活動への参加」、「我が国の農業」、「我が国の工業」、「我が国の伝統や文化」

2. 今回の改訂で新設、学年及び学校を越えて移行した事項

相当数の児童ができています（おおむね80%以上）	課題があると考えられる（おおむね60%未満）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 「災害及び事故の防止に関わる地域の協力活動」(地域の協力活動と自分たちの生活や行動との関わり)【新設:3,4年】 ・ 「主な地図記号」【新設:3,4年】 ・ 「事故の防止や廃棄物処理のための法やきまり」【新設:3,4年】 ・ 「世界の主な大陸と海洋」【新設:5年】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「47都道府県の名称と位置」【新設:3,4年】 ※改善傾向にある(通過率60%以上の都道府県が増加(12(H18)→20(H24))) ・ 「主な国の名称と位置」【新設:5年】 ・ 「産業における価格や費用」【新設:5年】 ・ 「国民の司法参加」(裁判員制度)【新設:6年】

3. 従来より課題と指摘される事項や経年比較等の観点から把握・分析が必要な事項等

相当数の児童ができています（おおむね80%以上）	課題があると考えられる（おおむね60%未満）
<ul style="list-style-type: none"> ・ グラフや年表から情報を読み取ること【従来より課題】 ・ 「日本国憲法の基本的な考え方」【経年比較】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「明治期以降の歴史上の人物と業績」の一部(同時期に活躍した人物の理解)【従来より課題】※全体としては改善傾向にある ・ 地図から読み取った情報を適切に表現すること【従来より課題】

小学校学習指導要領実施状況調査 各教科のペーパーテスト調査結果の概要と指導上の改善点（社会）

B-2. 指導上の改善点（社会）

1. 情報を基にして社会的事象の意味を考え表現できるようにする指導の充実

- ・ 情報を比較したり関連付けたりして、社会的事象の特徴、働き、役割、因果関係、条件などを考え表現できるようにする指導が重要。
- ・ 調べたこと、分かったことや考えたことを根拠として示しながら説明できるように引き続き指導することが必要。また、学習した用語・語句を活用して社会的事象の意味について分かったことや考えたことを説明できるようにする指導が重要。

2. 基礎的な知識や技能を確実に身に付けるようにする指導の充実

- ・ 社会的事象に関する基礎的な知識については、授業の中で繰り返し指導したり、用語・語句の意味に留意して指導したりして、確実に身に付けるようにする指導が重要。
- ・ 資料から情報を読み取る技能については、資料に応じた読み取り方や複数の資料を関連付けた読み取り方を指導して、社会的事象に関する情報を的確に読み取ることができるようにしていくことが重要。
- ・ 情報を効果的に活用する技能については、必要な資料を選んだり吟味したりできるようにする指導が重要。また、情報を整理し、目的を明確にして発信することについても指導することが必要。

3. 問題解決の見通しをもったり学習したことを振り返ったりする指導の充実

- ・ 社会的事象から学習問題を見だし、その解決の見通しをもつように引き続き指導することが必要。
- ・ 学習したことを振り返り、様々な情報を総合して、社会的事象の意味（目的、働きなど）を考え、表現できるようにする指導が重要。

4. よりよい社会の形成に参画する資質や能力の基礎を育てる指導の充実

- ・ 社会の一員として、社会的事象の意味を考えるように引き続き指導することが必要。
- ・ 社会的事象への関心を高め、主体的、協同的に学ぼうとする態度を養う指導が重要。
- ・ 社会的な見方や考え方を養い、社会生活についての理解を図る指導が重要。こうしたことを通じて、人々が相互に関わりをもちながら生活を営んでいることを理解するとともに、自らが社会生活に適応し、地域社会や国家の発展に貢献しようとする態度を育てるようにしていくことが重要。

小学校学習指導要領実施状況調査 各教科のペーパーテスト調査結果の概要と指導上の改善点（算数）

- ・ 等しい比について考え説明することや、「帯分数を含む分数の乗法及び除法」,「直線の平行や垂直の関係」,「異分母の分数の加法及び減法」,「円の面積の求め方」,「起こり得る場合」等については、相当数の児童ができています。
- ・ 目的に応じてグラフを用いて考え説明することや、分数の除法の意味や割合に関する問題、「□や△などを用いた式の理解」,「四則計算の結果の見積り」,「単位量当たりの大きさ」等については、課題があると考えられる。

C-1. ペーパーテスト調査結果の概要(算数)

1. 今回の改訂の基本方針に掲げられている事項

(1) 思考力・判断力・表現力等の育成

相当数の児童ができています（おおむね80%以上）

- ・ 等しい比について考え説明すること

課題があると考えられる（おおむね60%未満）

- ・ 目的に応じてグラフを用いて考え説明すること

(2) スパイラルによる教育課程の編成(知識・技能の確実な定着や数学的な思考力・表現力の育成等)

- ・ 「反復(スパイラル)による学習指導」が行われているもののうち、以下のものについては、学年が上がると通過率が高い傾向が見られる。

(学年が上がると通過率が高い傾向が見られるものの例)

「分数と整数の乗法及び除法の計算」,「小数の乗法及び除法に関する計算の仕方の説明」,「作図の方法」,「数量の関係を式に表すこと」

2. 今回の改訂で新設, 学年及び学校を越えて移行した事項

相当数の児童ができています（おおむね80%以上）

- ・ 「帯分数を含む分数の乗法及び除法」【新設:6年】
- ・ 「同分母の分数の加法」,「直線の平行や垂直の関係」【移行:5年→4年】
- ・ 「異分母の分数の加法及び減法」【移行:6年→5年】
- ・ 「円の面積の求め方」【移行:5年→6年】
- ・ 「起こり得る場合」【移行:中2年→6年】

課題があると考えられる（おおむね60%未満）

- ・ 「□や△などを用いた式の理解」【新設:4年】
- ・ 「四則計算の結果の見積り」(場面に応じて適切な式を考えること)【移行:5,6年→4年】
- ・ 「大きさの等しい分数」(分数の大きさを図を用いて表すこと)【移行:5年→4年】
- ・ 「体積の単位」,「単位量当たりの大きさ」【移行:6年→5年】

3. 従来より課題と指摘される事項や経年比較等の観点から把握・分析が必要な事項等

相当数の児童ができています（おおむね80%以上）

- ・ 点対称の作図の問題【経年比較】

課題があると考えられる（おおむね60%未満）

- ・ 分数の除法の意味や割合に関する問題【従来より課題】
- ・ 倍という言葉の問題文に含む場合における除法の立式【従来より課題】
- ・ 問題場面から式を立てる問題【経年比較】
※但し、前回(H15)を有意に上回っている

C-2. 指導上の改善点（算数）

1. 指導内容のより確かな理解のための算数的活動の充実

- ・ 算数の知識をもとに発展的・応用的に考えたりする活動や、考えたことを表現したり説明したりする活動など、算数的活動を通じた指導の一層の充実が求められる。
- ・ 算数科における言語活動については、活動させる前に言葉で表現させたり、活動したことを言葉で振り返らせたり、それらを相互に吟味させたりすることが重要。また、正しく用語を使えるようにするとともに、用語の意味の理解の指導にも力を入れることが必要。

2. 学習内容を振り返り、理解を深める活動の充実

- ・ 新たな学習した内容とこれまで学習した内容を関連づけ、問題解決の際に活用できるよう、学習内容を振り返る活動を取り入れることが必要。
- ・ その際には、学習内容をただ思い出し確認するだけではなく、理解を深める活動を充実させることが重要であり、毎時間の学んだことと既習の学習とをつなげてその意味を考え、知識を整理しようとする態度を養うことが必要。

3. 多様な表現ができる児童の育成

- ・ 式で表されたことを図にしたり、図に表されたことを式にしたりするとともに、その意味を読み取るなどして、言葉や数、式、図、表などの相互の関連を理解することができるようにする指導が重要。

4. 児童が問題解決の主体者となるために素朴な疑問や好奇心からの問題設定

- ・ 思考力を重視した指導が浸透しつつあることがうかがわれるが、一方で、算数の授業の目的が問題を解くことに偏りがちであるのも否定できない。低学年の頃から、児童の疑問や好奇心から問題設定を行うなどの指導を行うことが、主体的に問題解決を行う児童を育てることにつながると考えられる。

5. 問題解決的な学習の充実

- ・ 問題解決の過程では、試行錯誤をしたり、資料を収集整理したり、実際に具体物を操作したり、実験したり、観察したりするなどの算数的活動が行われる。このような問題解決の過程を児童が主体的に行うことができるように、指導を充実させることが重要。

6. コンピュータの適切な活用の充実

- ・ コンピュータなどを用いて、知識・技能の活用を図ったり、児童の能力を創造的に発揮させたりすることが重要。
- ・ その際には、コンピュータの持つ機能を効果的に活用することによって、数量や図形についての感覚を豊かにしたり、表現する力を高めたりするよう、指導を工夫することが重要。

小学校学習指導要領実施状況調査 各教科のペーパーテスト調査結果の概要と指導上の改善点（理科）

- ・ 実験結果のグラフから要因を考え予想することや、予想に対する検証方法を計画し観察・実験を実施すること、身近な現象に目を向け学んだことを生活に適用すること、観察・実験の記録の技能等については、相当数の児童ができています。
- ・ 比較対象の設定や条件の制御をすることや、科学的な言葉や概念を的確に記述すること、事象の変化を要因と結び付けて的確に表現すること、一部の観察・実験器具の操作の技能等については、課題があると考えられる。

1. 今回の改訂の基本方針に掲げられている事項

(1) 思考力・判断力・表現力等の育成

D-1. ペーパーテスト調査結果の概要(理科)

相当数の児童ができています (おおむね80%以上)

課題があると考えられる (おおむね60%未満)

- ・ 実験結果のグラフから要因を、考え予想すること
- ・ 予想に対する検証方法を計画し、観察・実験を実施すること

- ・ 比較対照の設定や条件の制御をすること
- ・ 結果を分析し、予想や仮説に照らし合わせた考察をすること
- ・ 科学的な言葉や概念を的確に記述することや、事象の変化を要因と結び付けて的確に表現すること

(2) 学習内容と実際の自然や生活との関係を捉えること

相当数の児童ができています (おおむね80%以上)

課題があると考えられる (おおむね60%未満)

- ・ 身近な現象に目を向け学んだことを生活に適用すること

- ・ 観察の視点を明確にもち、自然事象に関して実感を伴って理解すること

(3) エネルギーの利用や環境保全に着目し考察すること

相当数の児童ができています (おおむね80%以上)

課題があると考えられる (おおむね60%未満)

- ・ エネルギーの変換に関する内容等を理解すること

- ・ エネルギー効率に着目した考察や食物連鎖を理解すること

(4) 観察・実験の技能の育成

相当数の児童ができています (おおむね80%以上)

課題があると考えられる (おおむね60%未満)

- ・ 観察・実験の記録の技能

- ・ 一部の観察・実験器具の操作の技能

2. 今回の改訂で新設、学年及び学校を越えて移行した事項

相当数の児童ができています (おおむね80%以上)

課題があると考えられる (おおむね60%未満)

- ・ 「人の体のつくりと運動」【新設:4年】
- ・ 「天気の様子」【移行:5年→4年】

- ・ 「流水の働き」(川原の石の形状の成り立ち)【一部追加:5年】
- ・ 「てこの規則性」(てこのつり合いを一般化し式を導く)【移行:5年→6年】

3. 従来より課題と指摘される事項や経年比較等の観点から把握・分析が必要な事項等

相当数の児童ができています (おおむね80%以上)

課題があると考えられる (おおむね60%未満)

- ・ 「月と太陽」【経年比較】

- ・ 「電流の働き」(条件に着目した実験を計画すること等)【経年比較】
- ・ 「土地のつくりと変化」(地震や火山に関する内容等)【経年比較】

小学校学習指導要領実施状況調査

各教科のペーパーテスト調査結果の概要と指導上の改善点（理科）

E-2. 指導上の改善点（音楽）

3. 従来より課題と指摘される事項や経年比較等の観点から把握・分析が必要な事項等

1. 問題解決の能力（思考力・判断力・表現力）の育成

(1) 問題を見だし、予想や仮説を立て、実験を計画することの重視

- ・ 実験を計画する際には、予想や仮説を検証することや、比較対照実験の必要性に気付かせていくことが重要。
- ・ 実験を計画する際には、自分の考えの根拠を明確にしなが、具体的な観察道具や実験器具を想定したり、モデル図に表現して考えたりすることが必要。
- ・ 観察・実験において、計画通りに行えなかったり、予想通りの結果が得られなかったりする際には、予想や仮説を見直したり、検証計画を改善し、再度、観察・実験を行ったりすることが必要。

(2) 観察・実験の結果を整理し、問題や予想に照らし合わせて考察することの重視

- ・ 観察・実験の結果について考察し結論を導く際には、観察・実験の結果を表やグラフに整理して分析的に読み取らせる機会を設けることが重要。
- ・ 観察・実験の結果の考察により結論を導く際には、結果と結論の区別を明確にすることが必要。そのためには、問題や予想に立ち戻り、それに応じた考察を一人一人が行うようにすることが重要。

(3) 科学的な言葉や概念を使用することの重視

- ・ 科学的な見方や考え方を養うために、自ら予想したり、考察したりしたことを表現する際には、科学的な言葉や概念を適切に使用して説明できるようにすることが重要。
- ・ 科学的な言葉や概念を使用できるようにするためには、表、グラフ、図、絵、ICT機器の活用等により、思考やイメージを可視化し、児童に事物・現象に関わる科学的な言葉や概念を捉えさせることが必要。

2. 実際の自然や生活との関係を捉えることの重視

- ・ 実際の自然との関係を捉えさせる際には、自然の事物・現象の存在や変化に着眼して、学習した知識を活用する学習を展開することが必要。
- ・ 実際の生活との関係に気付かせ、その仕組みを捉えさせる際には、生活への適用の場面を意図的に設定することが必要。

3. エネルギーの利用や環境保全に着目し考察することの重視

- ・ エネルギーの有効利用に着目できるようにするためには、光電池や発電機、発光ダイオード等の利点や、どのように利用されているのかを調べることが重要。
- ・ 「生物と環境」(第6学年)では、循環や相互依存等について着目して推論するなど、グローバルな視点で環境保全を捉えられるような指導の工夫が必要。

4. 観察・実験の技能の育成

- ・ 観察・実験を実施する際には、できる限り個人やペアで器具や道具の操作を行えるようにすると同時に、グループで行うときには、役割を固定せずに交代するなど、児童一人一人が観察・実験の技能を習得できるようにすることが必要。
- ・ 信頼性の高いデータを得るために必要な実験技能を確実に習得できるように指導の工夫・改善を図ることが重要。また、観察や実験を安全に行うために、器具の正しい操作方法を板書やポスター等で徹底して指導すること等が重要。

小学校学習指導要領実施状況調査 各教科のペーパーテスト調査結果の概要と指導上の改善点（音楽）

- ・ 曲想の変化と音楽の仕組みを結び付けて聴くことや、世界各国の音楽の中から我が国の音楽を聴き分けること等については、相当数の児童ができています。
- ・ 楽曲の特徴を言葉で適切に表すことや、音楽表現に対する思いや意図を言葉で適切に表すこと、我が国の音楽の特徴をとらえて聴くこと等については、課題があると考えられる。

E-1. ペーパーテスト調査結果の概要（音楽）

1. 今回の改訂の基本方針に掲げられている事項

(1) 思考力・判断力・表現力等の育成

相当数の児童ができています（おおむね80%以上）	課題があると考えられる（おおむね60%未満）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 鑑賞において、曲想の変化と音楽の仕組み（反復・変化）を結び付けて聴くこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鑑賞において、楽曲の特徴を言葉で適切に表すこと ・ 歌唱及び器楽において、音楽表現に対する思いや意図を言葉で適切に表すこと

(2) 我が国の音楽文化に愛着をもつとともに他国の音楽文化を尊重する態度等の育成

相当数の児童ができています（おおむね80%以上）	課題があると考えられる（おおむね60%未満）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界各国の音楽の中から我が国の音楽を聴き分けること 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 我が国の音楽の特徴をとらえて聴くこと

2. 今回の改訂で新設、学年及び学校を越えて移行した事項

相当数の児童ができています（おおむね80%以上）	課題があると考えられる（おおむね60%未満）
<ul style="list-style-type: none"> ・ [共通事項]ア「音楽を形づくっている要素を聴き取ることとその働きを感じ取ること」【新設】のうち、木管楽器・弦楽器の音色を聴き取ること ・ 「各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏すること」【新設】のうち、合奏の改善すべき点に気付くこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・ [共通事項]ア「音楽を形づくっている要素を聴き取ることとその働きを感じ取ること」【新設】のうち、二つの旋律の重なり方や、長調か短調かを聴き取ること、旋律の特徴をとらえること ・ [共通事項]イ「音符、休符、記号や音楽にかかわる用語を理解すること」【新設】のうち、音符や記号を理解すること、聴き取ったリズムと楽譜を結び付けること

3. 従来より課題と指摘される事項や経年比較等の観点から把握・分析が必要な事項等

相当数の児童ができています（おおむね80%以上）	課題があると考えられる（おおむね60%未満）
※ 特記事項なし	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽譜を見て階名を正しく読むこと【従来より課題】

小学校学習指導要領実施状況調査

各教科のペーパーテスト調査結果の概要と指導上の改善点（音楽）

E-2. 指導上の改善点（音楽）

1. 思考・判断し、表現する過程を重視した指導の一層の充実

- ・ 音楽の特徴を感じ取りながら、思いや意図をもって音楽表現をしたり、楽曲の特徴や演奏のよさをとらえて味わって聴いたりする、主体的・創造的な学習をより一層充実することが重要。
- ・ その際、児童の協同的な学習を促し、音と言葉によるコミュニケーションを図る指導を充実することが重要。

2. 音楽的な特徴をとらえる指導の改善・充実

- ・ 音楽を形づくっている要素を聴き取ったり、音楽活動を通して用語や記号を理解して楽譜を読んだりするなどして、聴覚と視覚を関わらせて音楽的な特徴をとらえる指導を充実することが重要。
- ・ 音符、休符、記号や用語については、表現及び鑑賞の活動の中で、実際の音と関連させてその意味や働きを理解したり、音符、休符、記号や用語を活用する場面を設けたりするなどして、児童が実感をもって理解できるように、指導方法を工夫することが重要。
- ・ 無理なく読譜に慣れることができるように、指導方法を工夫することが重要。

3. 音楽づくり・鑑賞の指導の改善・充実

- ・ 「音楽の授業で、音楽をつくるのが好き」と回答した児童は約5割である。また、音楽づくりの指導内容について「児童が身に付けやすい」と回答した教師は約2割である。
このようなことも踏まえ、音楽づくりについては、児童がつくる過程を楽しみながら実際にいろいろな音楽表現を試し、互いの表現のよさを交流するなどして、音楽をつくる喜びを味わうことができるように、指導方法を工夫することが重要。
- ・ 鑑賞については、想像したことや感じ取ったことと音楽的な特徴を結び付けて言葉で適切に表す指導を一層充実し、楽曲全体を味わって聴くことができるように、指導方法を工夫することが重要。

4. 我が国の音楽の指導の改善・充実

- ・ 我が国や郷土の音楽に対して、児童の興味・関心を高めるためには、和楽器に親しむなど体験活動を充実することが重要。
- ・ 我が国の音楽の特徴を感じ取りやすい音楽を教材として扱い、必要に応じて、諸外国の音楽と比較するなどして、我が国の音楽の特徴をとらえて聴くことができるようにし、音楽の多様性や音楽文化の理解につながる素地を養うようにすることが重要。
- ・ 唱歌やわらべうた、民謡などの日本のうたについては、児童がそのよさを感じ取って表現できるよう、歌詞の内容や音楽を形づくっている要素を手掛かりに、楽曲に対する理解を深めるとともに、曲にふさわしい自然な歌い方で歌うことができるように、指導方法を工夫することが重要。

小学校学習指導要領実施状況調査 各教科のペーパーテスト調査結果の概要と指導上の改善点（図画工作）

- ・ 形の特徴を考えながら表し方を構想して絵に表すことや、自分たちの作品について表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえること等については、相当数の児童ができています。
- ・ 表したいことを見付けて絵に表すことや、我が国や諸外国、暮らしの中の作品について表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえること、複数の造形的な特徴を根拠に作品の印象を説明すること等については、課題があると考えられる。

F-1. ペーパーテスト調査結果の概要(図画工作)

1. 今回の改訂の基本方針に掲げられている事項

(1) 思考力・判断力・表現力等の育成

相当数の児童ができています（おおむね80%以上）	課題があると考えられる（おおむね60%未満）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 想像したことを絵に表す活動を通して、形の特徴を考えながら表し方を構想して表すこと ・ 自分たちの作品を鑑賞する活動を通して、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえること 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 想像したことを絵に表す活動を通して、表したいことを見付けて表すこと ・ 我が国や諸外国の親しみのある美術作品、暮らしの中の作品を鑑賞する活動を通して、表し方の変化、表現の意図や特徴などをとらえること

(2) 言語活動を通して作品のよさや美しさを感じ取る鑑賞の能力の育成

相当数の児童ができています（おおむね80%以上）	課題があると考えられる（おおむね60%未満）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品から得た自分の印象について、形や色の造形的な特徴を一つとらえ、それを根拠に説明すること 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品から得た自分の印象や情景、全体的な感じなどを、形や色、動きや奥行きなどの複数の造形的な特徴を根拠に説明すること

2. 今回の改訂で新設、学年及び学校を越えて移行した事項

相当数の児童ができています（おおむね80%以上）	課題があると考えられる（おおむね60%未満）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品を鑑賞する問題において、形や色の造形的な特徴を一つとらえ、それを基に自分のイメージをもつこと【共通事項】【新設】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品を鑑賞する問題において、形や色、動きや奥行きなどの複数の造形的な特徴をとらえ、それらを基に自分のイメージをもつこと【共通事項】【新設】

3. 従来より課題と指摘される事項や経年比較等の視点から把握・分析が必要な事項等

相当数の児童ができています（おおむね80%以上）	課題があると考えられる（おおむね60%未満）
※ 特記事項なし	<ul style="list-style-type: none"> ・ 我が国の作品を鑑賞し、全体的な感じを、複数の造形的な特徴を根拠に説明すること【従来より課題】（1(2)の「課題があると考えられる」と同旨）

小学校学習指導要領実施状況調査 各教科のペーパーテスト調査結果の概要と指導上の改善点（図画工作）

F-2. 指導上の改善点(図画工作)

1. 発想や構想の能力を育成する指導の充実

- ・「図画工作の授業がどの程度できますか」という質問に対して、肯定的な回答をした児童の割合は、前回の調査(H16)と比べて10%以上高い。このようなことから、表したいことを自分で見つける学習を充実するなど、児童一人一人の創造性を一層高めることが重要。
- ・表したいことを見付けることと、表し方を考えたり計画を立てたりすることの違いや関連を理解し、表したいことを思い付くことができるよう、指導することが重要。
- ・材料を基に造形遊びをする活動と、表したいことを絵や立体、工作に表す活動をバランスよく指導することが重要。また、発想や構想の能力、創造的な技能、鑑賞の能力が共に高まるよう、指導することが重要。

2. 鑑賞の対象や鑑賞の方法を工夫した指導の充実

- ・我が国や諸外国の親しみのある美術作品、暮らしの中の作品などの鑑賞の活動について、より効果的な言語活動を取り入れるなど、一層充実することが必要。
- ・我が国の美術作品のうち、日本の伝統的な文化に関しては、材料や表現の方法と関連付けた表現活動を設定するなど、児童の主體的な活動を取り入れると共に、興味をもつことができるよう、鑑賞の方法を工夫することが重要。
- ・暮らしの中の作品の鑑賞は、暮らしの中のものや造形として広くとらえ、児童が自分の暮らしと関連付け、生活を豊かにすることに興味をもつことができるよう、鑑賞の方法を工夫することが重要。

3. 造形的な特徴をとらえイメージをもつことに関する指導の充実

- ・自分の感覚や活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえ、自分のイメージをもつという指導事項[共通事項]についての一層の理解が重要。
- ・表現の活動では思い付いたことを進んで取り入れられるようにしたり、鑑賞の活動では根拠を明確にして語り合ったりするなど、造形的な特徴をとらえイメージをもつことを意識できるような学習活動を充実することが重要。

4. 共に学び高め合う場としての指導の充実

- ・児童が自分や友達の表し方や感じ方のよさや違いに気付き、活動を通して共感したり、多様性を感じ取ったりすることができるよう、指導を充実することが重要。
- ・造形遊びをする活動においては、児童の気付きや発想が、友達とつながり、活動を展開できるよう、指導を工夫することが重要。
- ・表したいことを絵や立体、工作に表す活動では、鑑賞の学習と関連させ、同じ材料や用具を扱う場面において、友達の表したいことや表し方の違いなどに気付き、お互いの表現のよさを感じ取ることのできるような指導の工夫をすることが重要。

小学校学習指導要領実施状況調査 各教科のペーパーテスト調査結果の概要と指導上の改善点（家庭）

- ・ 家庭の仕事と分担に関する知識・理解や、材料や目的に応じたいため方の工夫、場面・季節に応じた日常着の着方の工夫、物や金銭の計画的な使い方等の工夫等については、相当数の児童ができている。
- ・ 家族の一員として協力することへの関心や、栄養のバランスを考えた1食分の献立の工夫、環境に配慮して物を無駄なく使うための工夫等については、課題があると考えられる。

G-1. ペーパーテスト調査結果の概要(家庭)

1. 今回の改訂の基本方針に掲げられている事項

(1) 思考力・判断力・表現力等日常生活で活用する能力の育成

相当数の児童ができている（おおむね80%以上）

- ・ 家族との触れ合いや団らんを楽しくするための工夫や、近隣の人々とのかかわりを考えた家庭生活の工夫
- ・ 材料や目的に応じた野菜のいため方の工夫
- ・ 場面・季節に応じた日常着の着方の工夫
- ・ 物や金銭の計画的な使い方や目的に合った物の選び方の工夫

課題があると考えられる（おおむね60%未満）

- ・ 栄養のバランスを考えた1食分の献立の工夫
- ・ 製作する物に必要な布の大きさの工夫
- ・ 環境に配慮して物(食品)を無駄なく使うための工夫や、使い終わった物を再利用するための工夫

(2) 日常生活で活用する能力を高める上での基礎・基本の習得

相当数の児童ができている（おおむね80%以上）

- ・ 家庭の仕事と分担に関する知識・理解
- ・ 食事の役割(マナー)に関する知識・理解
- ・ 衣服の働きや手入れ、整理・整頓や掃除に関する知識・理解
- ・ 購入する物の選択に関する知識・理解

課題があると考えられる（おおむね60%未満）

- ・ 家族の一員として協力することへの関心
- ・ 食品の栄養的な特徴、材料の洗い方、我が国の伝統的な日常食である米飯とみそ汁の調理に関する知識・理解
- ・ 縫いしろやゆとりの必要性、ミシンなど製作に必要な一部の用具の使い方に関する知識・理解

2. 今回の改訂で新設、学年及び学校を越えて移行した事項

相当数の児童ができている（おおむね80%以上）

- ・ 環境に配慮して物(文房具)を長く大切に使うための工夫【新設:5, 6年】

課題があると考えられる（おおむね60%未満）

- ・ 体に必要な栄養素の種類と働きに関する知識・理解【移行:中1, 2, 3年→5, 6年】

3. 従来より課題と指摘される事項や経年比較等の観点から把握・分析が必要な事項等

相当数の児童ができている（おおむね80%以上）

※ 特記事項なし

課題があると考えられる（おおむね60%未満）

- ・ 包丁の安全な取扱い方に関する知識・理解【従来より課題】

G-2. 指導上の改善点(家庭)

1. 家族の一員として協力することへの関心と生活時間の使い方の工夫

- ・ 家庭の仕事と分担については、家族を大切にできる意識を高めるため、指導の充実が引き続き必要。
- ・ 生活時間を工夫し家族に協力することについては、家族が協力し合うことで家庭生活が円滑に営まれることに気付かせるとともに、家族に協力することへの関心を高める指導を工夫することが重要。家庭との連携を図る指導を工夫することも必要。

2. 栄養・調理に関する基礎的・基本的な知識・理解と1食分の献立の工夫

- ・ 体に必要な栄養素の種類と働きについては、五大栄養素の体内での主な働きに関する知識・理解を確実にするための指導を工夫することが重要。
- ・ 食品の栄養的な特徴については、特に、体内で「主にエネルギーのもとになる」、「主に体をつくるもとになる」グループの食品の区別を理由と共に理解させる指導を工夫することが重要。
- ・ 調理の基礎については、身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能を明確にし、適切な食品を選択して実習題材を設定することが重要。また、問題解決的な学習を取り入れ、なぜそのように調理するのかを実感を伴って理解できるよう、指導を工夫することが重要。
- ・ 1食分の献立については、献立の栄養のバランスを確認する方法を理解させ、課題のある献立をよりよい献立に修正できるよう、指導を工夫することが重要。

3. 製作に関する基礎的・基本的な知識・理解と快適な衣服の着方や住まい方の工夫

- ・ 生活に役立つ物の製作については、縫いしろやゆとりの必要性を理解させることにより、製作する物のでき上がりをイメージして布の大きさを考えられるよう、指導を工夫することが重要。また、ミシンの使い方の手順やまち針を使う必要性を考えさせたり、繰り返し体験させたりすることが重要。
- ・ 快適な衣服の着方の工夫については、着方と住まい方を関連させた指導の充実が引き続き必要。
- ・ 快適な住まい方の工夫については、日光の暖かさなど自然の力を生かす方法を考えさせる指導を工夫することが必要。

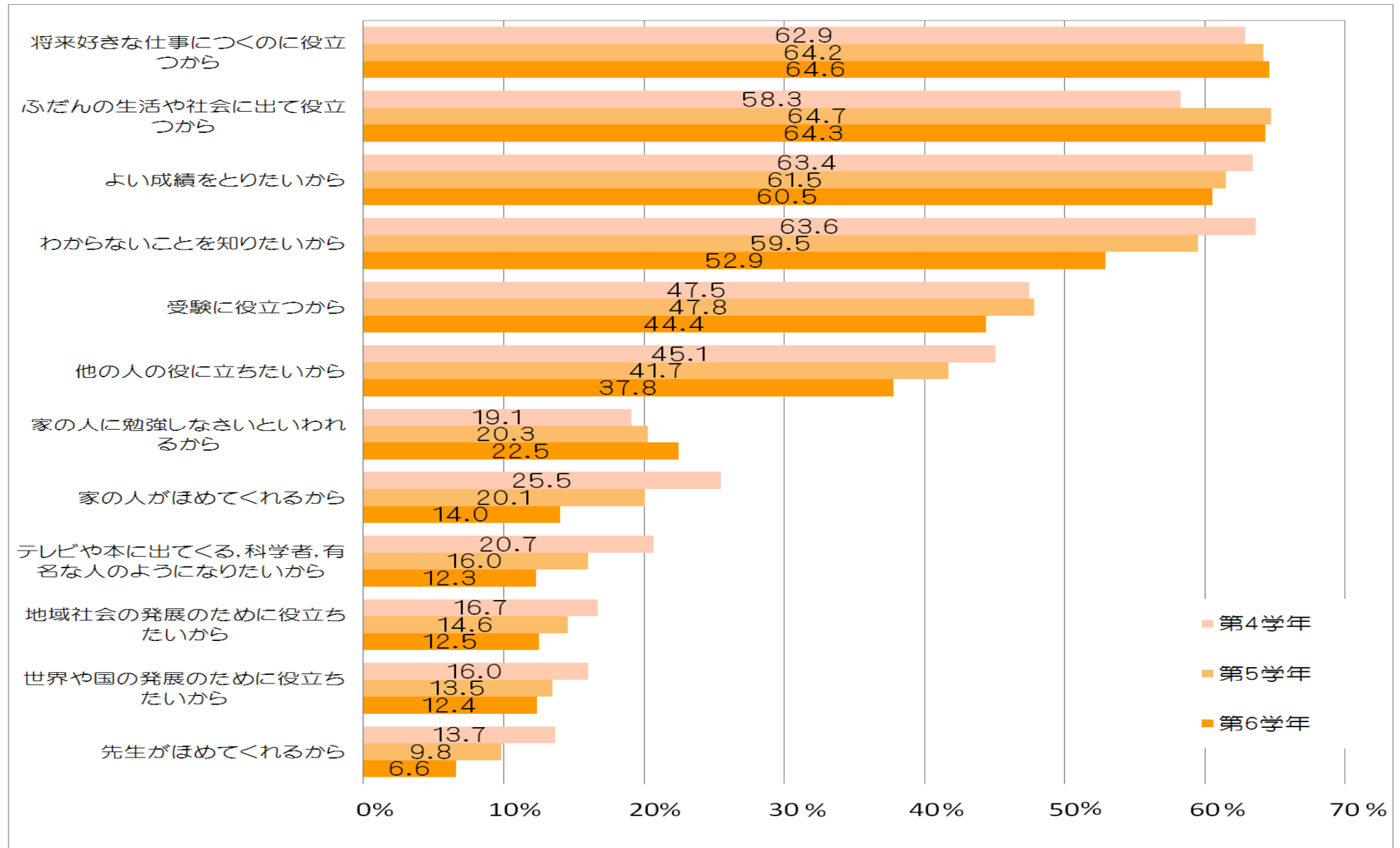
4. 購入する物の情報を収集・整理する技能と環境に配慮した生活の工夫

- ・ 購入する物の選択については、表示やマークなどの情報を収集・整理する活動を充実させることが重要。
- ・ 環境に配慮した生活の工夫については、調理や製作など、衣食住の内容との関連を図り、物の無駄のない使い方や使い終わった物の再利用について具体的に実践し、発表し合うなどの指導を工夫することが重要。

小学校学習指導要領実施状況調査 質問紙調査結果のポイント（児童質問紙）

○ 学習する目的について、「将来好きな仕事につくのに役立つから」と回答した児童の割合は、どの学年においても60%以上

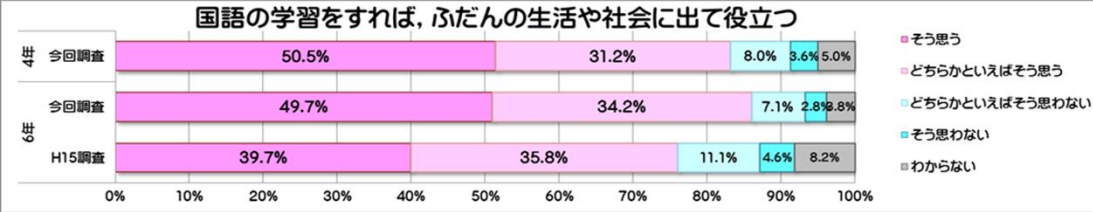
◇ ふだん何のために、勉強をしていますか。（あてはまるものすべてに○をつけてください。）



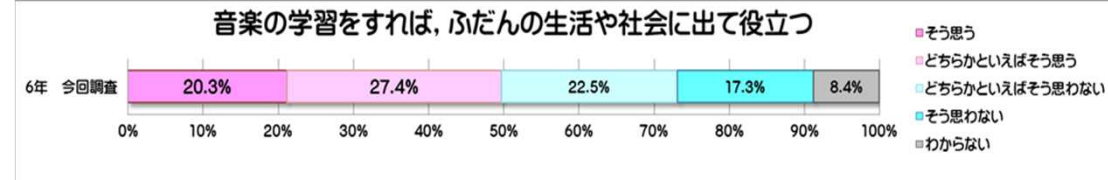
小学校学習指導要領実施状況調査 質問紙調査結果のポイント（児童質問紙）

○ 各教科の「学習をすれば、ふだんの生活や社会に役立つ」という質問について、前回調査(H15)と比べ、多くの教科・学年において、児童の肯定的な回答の割合が高くなっている。

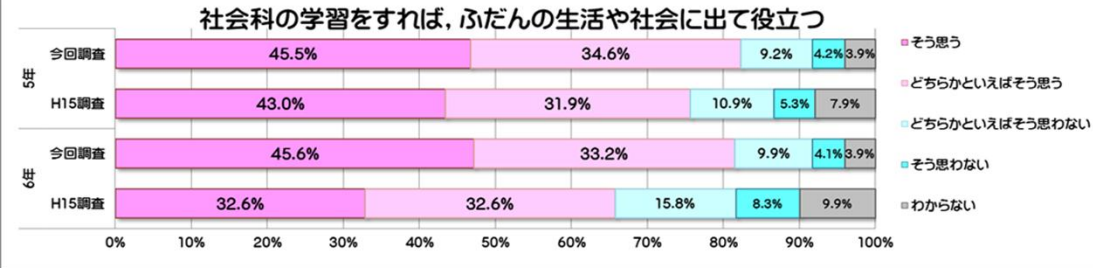
国語の学習をすれば、ふだんの生活や社会に出て役立つ



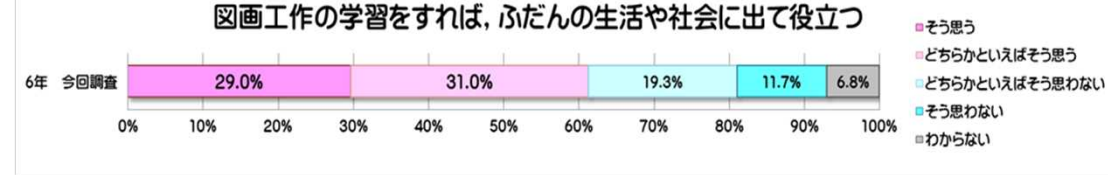
音楽の学習をすれば、ふだんの生活や社会に出て役立つ



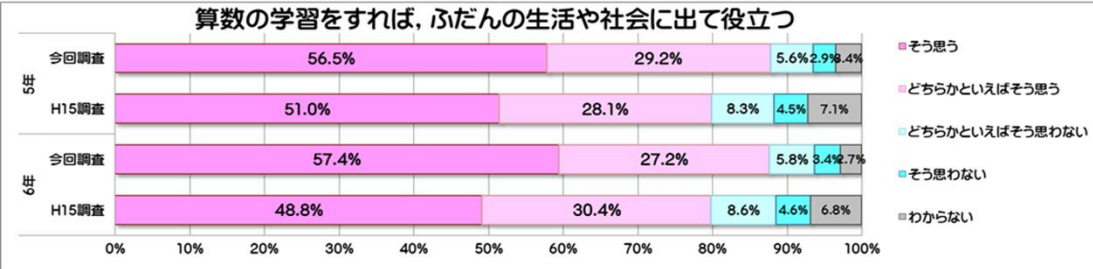
社会科の学習をすれば、ふだんの生活や社会に出て役立つ



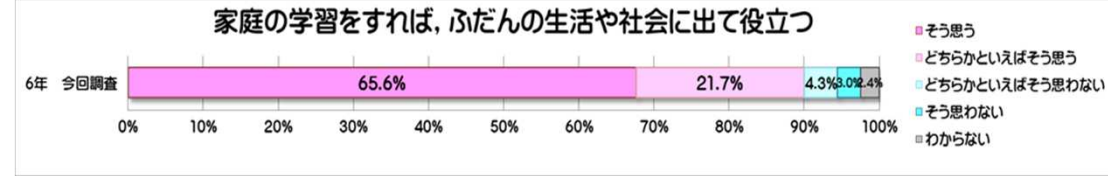
図画工作の学習をすれば、ふだんの生活や社会に出て役立つ



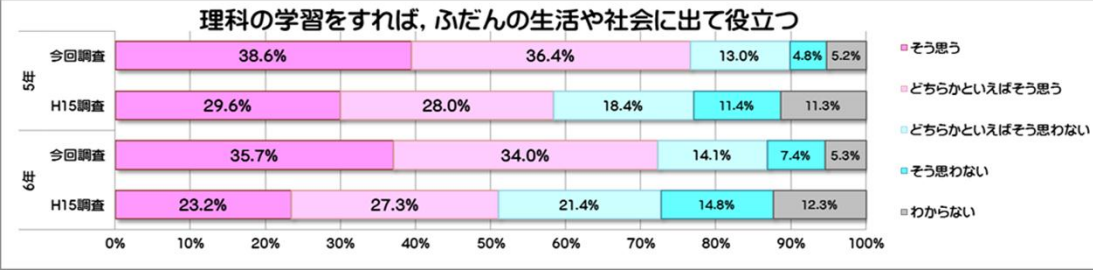
算数の学習をすれば、ふだんの生活や社会に出て役立つ



家庭の学習をすれば、ふだんの生活や社会に出て役立つ

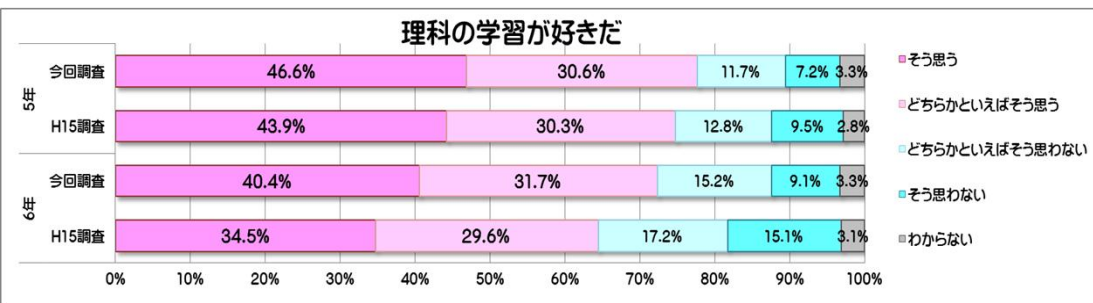
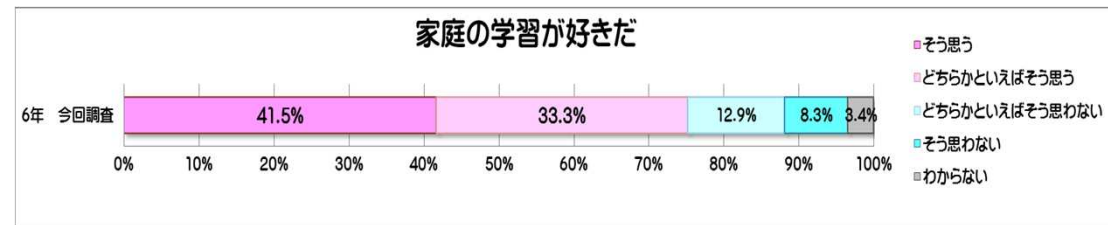
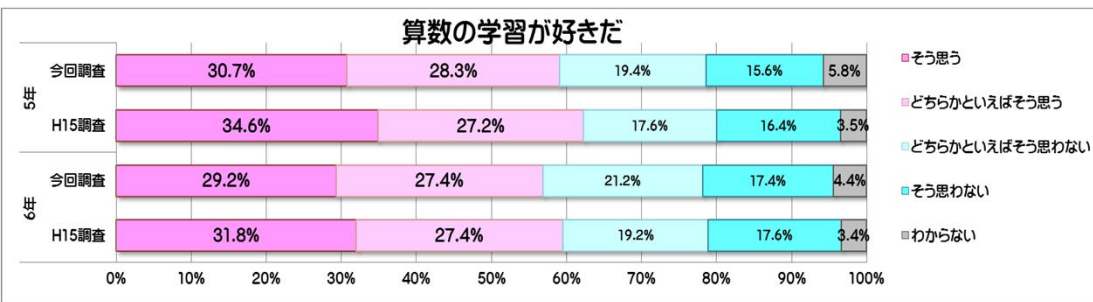
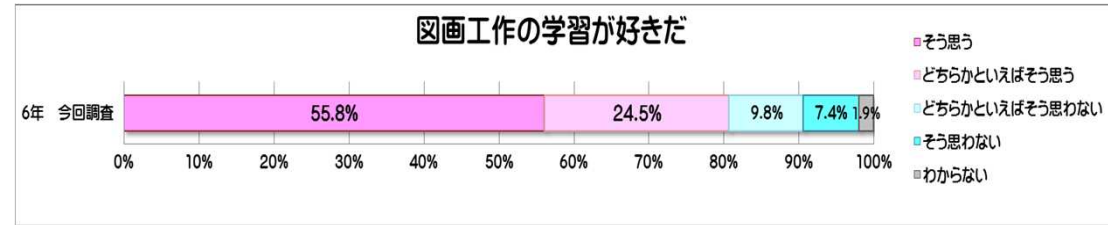
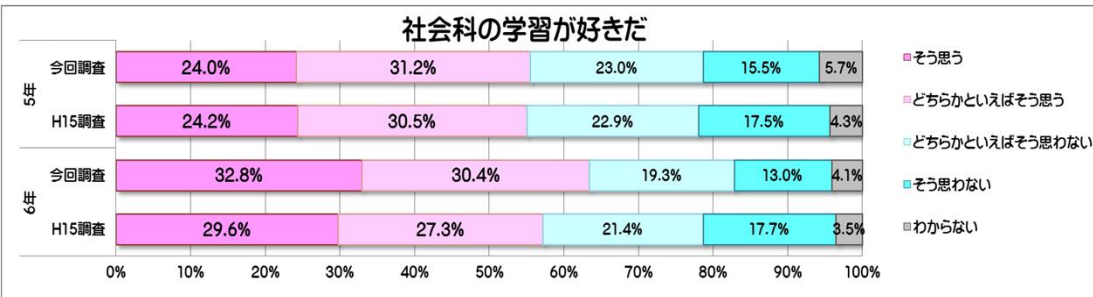
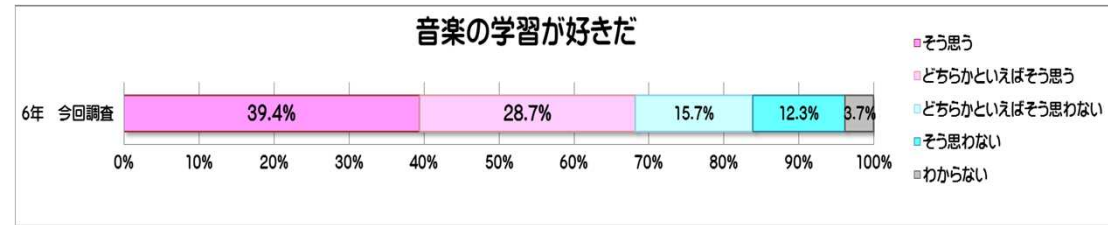
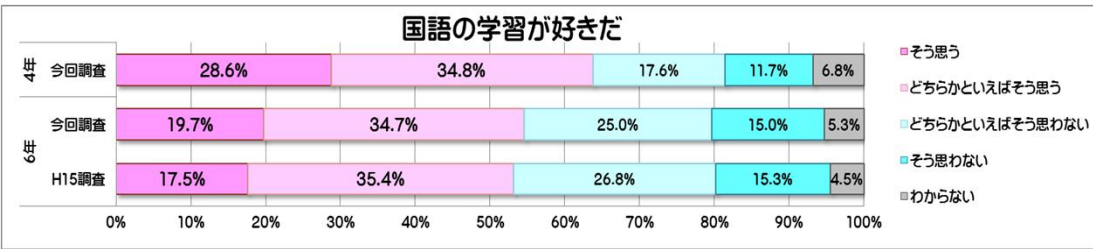


理科の学習をすれば、ふだんの生活や社会に出て役立つ



小学校学習指導要領実施状況調査 質問紙調査結果のポイント（児童質問紙）

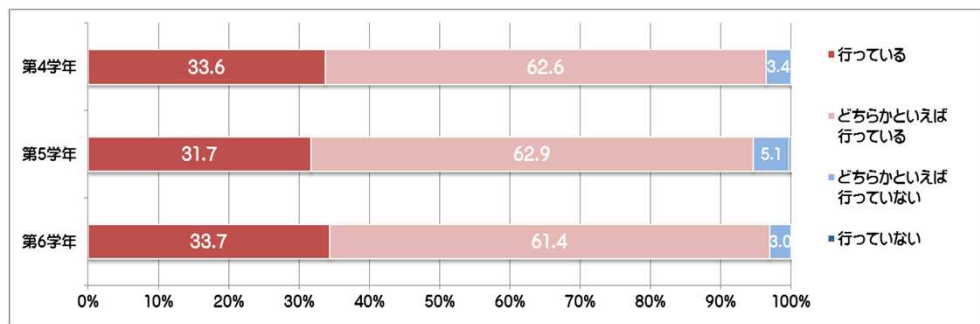
○ 各教科の「学習が好きだ」という質問における、児童の回答の割合



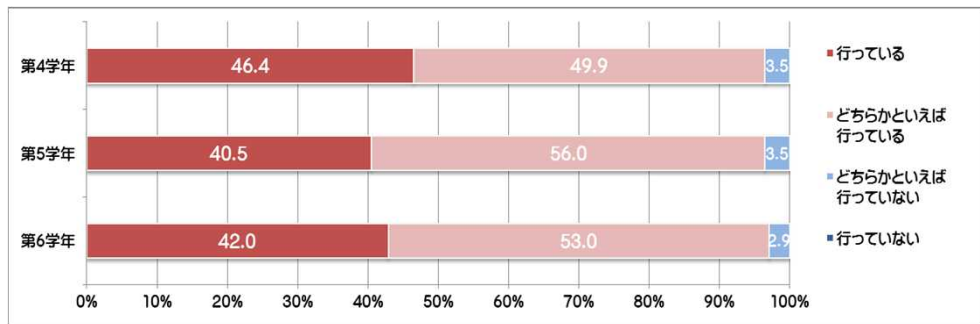
小学校学習指導要領実施状況調査 質問紙調査結果のポイント（児童質問紙）

○ 学習指導要領改訂の基本方針を意識して授業を「行っている」又は「どちらかといえば行っている」と回答した教師の割合がどの学年においても90%以上

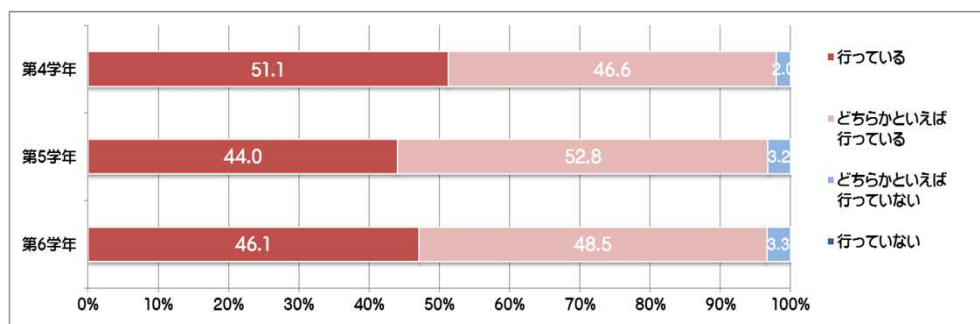
◇ 基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等を育成する観点からバランスを重視して授業を行っていますか。



◇ 主体的に学習に取り組む態度を養うことを意識して授業を行っていますか。

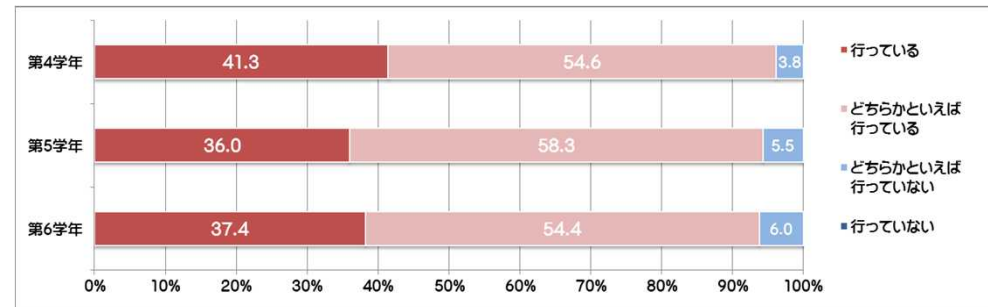


◇ 豊かな心や健やかな体を育成することを重視して授業を行っていますか。



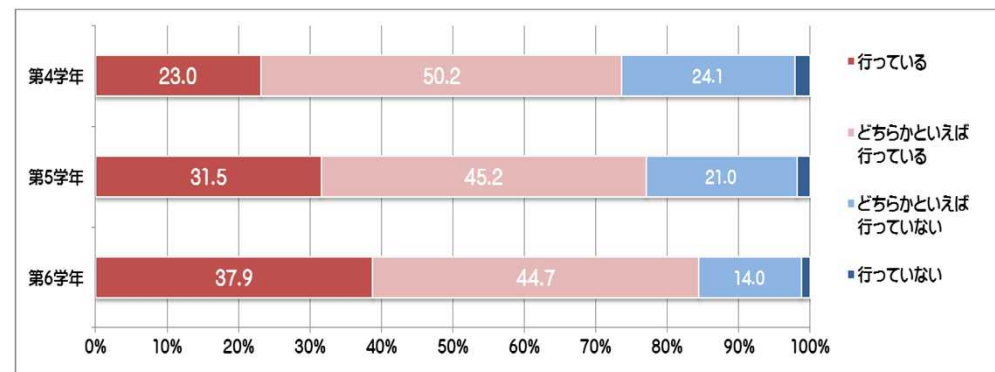
○ 言語活動を重視して授業を「行っている」又は「どちらかといえば行っている」と回答した教師の割合がどの学年においても90%以上

◇ 思考力・判断力・表現力の育成を図る上で必要となる言語活動を重視して授業を行っていますか。



○ 中学校における学習へのつながりを意識した指導をしている教師の割合が、学年が上がるにつれて高くなる傾向

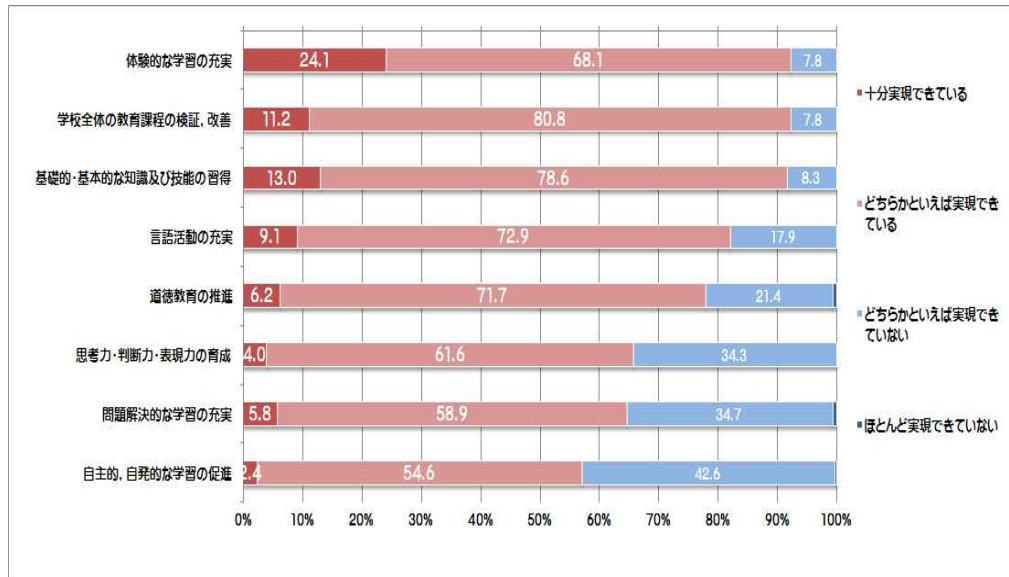
◇ 日々の学習における指導内容が、中学校における学習にどのようにつながっていくのかを意識しながら指導していますか。



小学校学習指導要領実施状況調査 質問紙調査結果のポイント（児童質問紙）

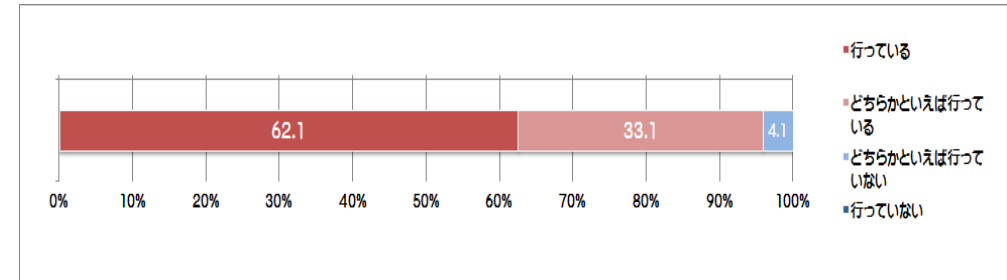
- 「体験的な学習の充実」、「学校全体の教育課程の検証・改善」、「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」の3項目については、90%以上の学校が「実現できている」と回答
- 「思考力・判断力・表現力の育成」、「問題解決的な学習の充実」、「自主的・自発的な学習の促進」の3項目については、30%以上の学校が「ほとんど実現できていない」又は「どちらかといえば実現できていない」と回答

◇ あなたの学校では、次の8項目についてどの程度実現できていると思いますか。最も近いと思う番号に○を付けてください。



- 家庭や地域社会との連携については、95%以上の学校が肯定的な回答

◇ あなたの学校では、家庭や地域社会と連携しながら、地域人材を活用した授業を行ったり、学校外の団体等と連携した授業を行ったりしていますか。



数学・理科の学習に対する生徒の意識 —TIMSS2011質問紙調査結果から—

◆国際平均に比べて、日本の中学生は学習の楽しさや実社会との連関に対して肯定的な回答をする割合が低いなど、学習意欲面で課題がある。

※ 生徒質問紙調査(対象:中学校2年生)において、下記項目につき、「強くそう思う」、「そう思う」と回答した生徒の割合の合計

	数学		理科	
	日本	国際平均	日本	国際平均
数学・理科の勉強は楽しい	48%	71%	63%	80%
数学・理科を勉強すると日常生活に役立つ	71%	89%	57%	83%
他教科を勉強するために数学・理科が必要	67%	81%	35%	70%
志望大学に入るために良い成績が必要	72%	85%	59%	77%
将来望む仕事につくために良い成績が必要	62%	83%	47%	70%
数学・理科を使うことが含まれる職業につきたい	18%	52%	20%	56%

(出典) IEA国際数学・理科教育動向調査 (TIMSS2011) 質問紙調査結果より文部科学省作成